

植柳跡地 ニュース 号外

衝撃の事実！

知っていましたか？

◆隠された跡地問題

植柳小学校の跡地問題は、体育館や校舎の耐震問題が始まりました。自治連合会によれば、京都市は七年間もほったらかしだったので、今回の跡地利用の提案をしたそうです。

しかし、植柳学区にとっては大切な植柳校、耐震補強さえして

もらえれば、グラウンドも体育館も校舎も残り、地域の活動も出来て、避難所も跡地内に確保されます。

ホテルによって跡地から住民が追い出されることもありません。

◆七年間ほったらかしどころか、四年前の提案

ところが、四年前に京都市から、費用を市が負担して耐震工事をする話があったのです。そんな夢のような話が本当にあったのでしょうか。

醒泉小学校と淳風小学校が統合し、下京雅小学校として醒泉小学校の土地に新たに小学校を建設することになり、新校舎が出来るまでの仮校舎として、植柳小学校を耐震補強して利用したいという提案がありました。

七億円かけて耐震補強をし、仮校舎としての使用を終えれば、元植柳小学校として、地域の活

動拠点、災害避難所として長く利用出来るようになるのです。理想的な提案です。

◆地域住民が断る？

ところが、「地域住民の声」は、その申し出を断りました。詳しくは市議会議事録にあります。理由は、耐震工事の一年間、地域活動ができないということでした。もったいない話、知っていましたか？

その結果、元格致小学校を十二億円かけて校舎の耐震補強をして体育館も建て替え、仮校舎として使うことになりました。

申し出を断った地域住民の声というのは、実は地域の有力者であったことが京都党のホームページに載っています。

地域にとって大事なことを、「地域住民の声」として、地域住民が知らない間に決めていいのでしょうか。地域住民の声というのは何なのでしょう。

◆六十年以上の我慢！ 今度こそ後悔しないように、 私たち地域住民の本当の 声を届けよう

今回のホテル案も、地域住民の声だと京都市は言います。このまま、一部の考えだけで進めていいのでしょうか。危険な地下避難所の問題もあります。

一年間の我慢を断り、住民が跡地から追い出される六十年以上の我慢を選ぶことは、地域住民の声なのでしょうか。まだ地域住民の声を聞く機会もないままです。

私たちの本当の気持ち、本当の声を伝える機会をつくりましょう！

■発行者 植柳跡地問題を考える会

代表 大屋峻



京都党
ホームページ

京都党

KEFUDO PARTY

3. 地方公職者が就任できる主要ポストの減少

トップ プロフィール 議会報告 政治活動 つぶや記 村山学生部 お問い合わせ

(平成27年5月議会代表質問より)

仮校舎に12億円?! 地元有力者に反対にあわや・・・

5月議会で京都党が反対した醒泉・淳風小学校統合整備の補正予算案。この問題、両小学校の統合を巡っておかしなことが起っていた。新校舎建設までの3年間を仮校舎として元格致小学校を活用するのだが、その仮校舎整備に約12億円を計上。12億円を掛けた仮校舎は3年後利用予定はない。たった3年のために12億円……。なぜこんなことになってしまったのか。調査して発覚したことは、もともと別の場所、元植柳小学校が移転先だったのだ。そこなら少なくとも5億円は節約できたということも発覚。しかし、地元住民の理解が得られず実現しなかったというのだ。地域の実力者の反対で5億円もの血税を余分につぎ込むことになったのだ。もう少しやり方はなかったのか?そして12億円掛けて設置する仮設校舎と仮設体育館のその後の使途について早期に方向性を示すべきである。教育予算の精査はどうしても甘くなりがちだが、タブーなき目線で引き続き精査していきたい。(27年5月議会・京都党反対討論要約)



まだまだ使える? 元植柳小

議会議事録でも検索できます

https://ssp.kaigiroku.net/tenant/kyoto/MinuteView.html?council_id=3409&schedule_id=4&is_search=false&view_years=2015#



平成27年定例会京都市議会会議録
第3号 5月開会市会

平成27年5月28日(木曜日)

○議長(津田大三) 次に、大津裕太議員に発言を許します。大津議員。

〔大津裕太議員登壇(拍手)〕

◆(大津裕太議員) 京都党市議団は、議第75号平成27年度京都市一般会計補正予算について賛成するとの態度を表明しておりますので、会派を代表して討論を行います。

議第75号のうち下京区醒泉小学校・淳風小学校統合整備の補正予算に関しまして、今回の両小学校の統合によって特に淳風小学校の子供たちにより良い教育環境を用意できること、また耐震改修が未済であった各教育施設の耐震改修を行い、子供たちの安全が確保できることは強く賛同できるところでございます。しかしながら、両校の統合の過程で、一時移転先として元格致小学校を3年間活用することで約12億円という多額の予算を掛けることに関しては疑義が残ります。

そもそも、元植柳小学校跡地が優先的な候補地で教育環境の面でも優れており、また同候補地であれば、一時移転に掛かる予算も約7億3,000万円と、今回の元格致小学校を活用する案より約5億円コストを節約して統合を進めることができたわけでございます。しかしながら、元植柳小学校の改修工事を行う1年間、同校跡地を地元利用できないことが理由で、地元住民の皆様の理解が得られず実現しなかったと説明がございました。これは逆に申せば、地元住民の皆様の説得ができなかったことで約5億円の血税が余分につぎ込まれたということでございます。地元住民の皆様の御理解を得ることは大変重要なことでございます。しかし、あくまで1年間限定のことであること、また財政が非常に厳しい京都市の現状の中で、5億円という多額の血税の負担を京都市民の皆様が強いる結果になったことを重く受け止めていただきたいと思います。

また、元格致小学校におきまして、今回の一時活用後の跡地活用も決まっていないうまま、約12億円という多額の予算を掛けて既存施設の改修工事及び仮設校舎、仮設体育館の設置がなされます。子供たちの安全や教育環境を考えると致し方ない工事が大半であると認識しております。しかし、今後の具体的な設計工事着手、あるいは入札の段階で3億円近くの圧縮ができる見込みという説明がございましたので、圧縮できるところは圧縮していただくこと、また、これまでの経緯も踏まえ必要最低限の工事にとどめ、質をできる限り抑えていただくこと、また、一時活用後の有益な跡地活用方法をしっかり考えていただくことの3点を強く要望いたします。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

○議長(津田大三) これをもって討論を終結いたします。



さらに関連する委員会討議についてはこちらをご確認下さい

京都市 平成27年5月 予算特別委員会第2分科会(第2回) 05月19日-02号

https://ssp.kaigiroku.net/tenant/kyoto/MinuteView.html?council_id=3579&schedule_id=1&is_search=false&view_years=2015

最後の方に京都党大津裕太議員の非常に興味深い発言があります。